

鳥獣被害防止に向けた取組を！



佐伯利彦議員
西条自民クラブ



問 本市における鳥獣被害の現状並びに鳥獣被害防止総合対策事業の内容及び期待される効果はどのようなものか。

答 本市においては、野生鳥獣により年間一千万円程度の農作物被害が生じており、農家の収入減少、耕作意欲の減退、耕作放棄地の増加などの要因となっている。

鳥獣被害防止総合対策事業は、西条市鳥獣被害防止対策協議会が導入するいのしし用大型箱わな10基及びニホンザル用大型囲いわな3基の購入経費や有害鳥獣捕獲に要する経費に対する支援を行うものである。

また、今回導入される大型箱わなにより年間20頭程度のいのししの捕獲を見込んでおり、大型囲いわなにおいても、ニホンザルの捕獲数が増加することで、農作物などへの被害が軽減されると期待している。

よりそいタクシーの運行区域の拡大を！



井上浩二議員
西条自民クラブ



問 よりそいタクシー（予約制乗合タクシー）は、現在、地域（西条、東予、丹原）ごとに運行しており、本年10月からは小松地域でも運行が始まる予定である。しかし、東予、小松地域の運行区域は各地域内となっており、丹原地域も本年10月から同様の運行となる予定と聞き及んでいる。このため、地域以外でもよく行く場所を追加する方法を取り入れる考えはないのか。

答 よりそいタクシーの運行効率の向上及び他の公共交通機関の利用促進の観点から、運行区域を旧市町ごとに設定している。よりそいタクシーを運行していく中で、利用者を含む地域のかたがたや運行事業者の意見も伺いながら、更なる利便性の向上と効率化に向けて、運行内容の改善に取り組んでいきたい。

保護者の休暇に併せて子どもたちに学びの機会を！



高橋保議員
西条自民クラブ



問 ラーケーションとは、ラーニング（学習）とバケーション（休暇）を組み合わせてできた造語で、子どもたちが学校の外で、保護者や家族とともに余暇を利用して楽しみながら学習する取組である。全国の自治体に広がりつつあるが、効果や課題についてどのように考えているのか。

答 得られる効果としては、児童・生徒に多様な学びの機会を提供でき、保護者にとつては、ワーク・ライフ・バランスの充実が図られると考えられる。一方で、授業の進度や学習への影響、保護者の時間的制約などにより、全ての家庭が活用できるとは限らないなど、一部の家庭だけが恩恵を受ける制度になる懸念も考えられる。現時点では、先行事例の情報収集を行っている段階であり、引き続き調査・研究していきたい。